

令和3年度 第2学期 始業式式辞

1学期の終業式を体育館でできたことが、はるか昔のように、新型コロナウイルス感染症の第5波が全国的に猛威を振るっており、夏休み後半は登校日や部活動の中止など、皆さんの学校生活にも影響を与えています。いったいいつまで続くのか、不安になったり、イライラしたり、そういう気持ちを抱く人が少なくないと思いますが、皆さんとともに学校生活をしている先生方も同じ気持ちです。この難局をともに乗り越えていきたい、そんな気持ちであることを知っておいてください。

さて、夏休みが終わりましたが、自粛生活が続く中、皆さんはオリンピックやパラリンピックは見たでしょうか。コロナ禍の中、開催自体に賛否が分かれていた今回のオリパラですが、オリンピックでは日本選手の活躍をはじめ、ボランティアの方の心温まるエピソードが報道されました。パラリンピックは今まさに開催されており、見ているだけで「すごい」と思うし、感動します。

3年生の皆さんは、例えば入試の面接で、「オリンピック・パラリンピックで何が一番印象に残りましたか。」と質問されたらどう答えるでしょうか。実は私は、放送を見て思ったことを、思い切ったあるテレビ局に意見として投稿しました。

それは、オリンピックのときはどのテレビ局もこぞって競技をテレビ中継していたのに、パラリンピックではなぜ、NHKしか放送しないのか、障害者のことを理解するため、自国開催のパラリンピックほどのチャンスはなかなかない。だからぜひ、そちらのテレビ局でパラリンピックを中継してほしいという内容のものです。

意見を投稿する前は、何度も文を見直し、表現のおかしな所はないかを自分なりにチェックしました。送信ボタンを押すのに少し勇気が必要でしたが、押しました。ささやかなことではありますが、今まであまり、こういうことをしたことのない私にとって印象に残る出来事でした。

自分の思ったことや考えたことを、意見として相手に伝えると言うことは勇気が必要です。私たちは、相手の表情やしぐさで、ある程度、相手の考えていることの察しが付きます。しかし、丁寧に話をしてもらわないと全部は分かりません。ですから、周りの人に自分の気持ちをできるだけ話してみるの大事なことです。

それを「心をひらく」と言います。

心を閉じていると、新しいものの見方や考え方や感じ方を身に付けることはできません。心も体も成長期の皆さんにとって、それは寂しいことです。ですから、皆さんには、ぜひ、心をひらいて様々な人の話を聞き、また、自分からも伝えることで、自分を成長させてほしいと思います。

一方で、インターネットやSNSによって、情報の発信が簡単にできるような時代です。夏休みの間、県内、また観音寺市内の感染者が増え始めたことから、先生方と相談して部活動を中止にしました。しばらくして、知り合いの方とあいさつを交わすと、その人から「中部中学校、コロナで大変やってなあ。」という発言があり、びっくりしました。どこで、どう話が広がって、この人までたどり着いたのか、それは分かりませんが、こういうことがコロナハラスメントにつながるのだらうと実感しました。

皆さんにお願いしたいことは、根拠のない、あいまいな情報を、真に受けないこと、また、その情報を簡単に発信しないことです。それは、実は大人でも難しいことですが、間違った情報を

発信すると責任を問われることがあります。相手が心を許せる友達だったとしても、自分の発言を送信する前に、もう一度、自分の心に、大丈夫か、間違っていないかと問いかけるようにしてください。

現時点でコロナ禍はいつこうに収まる気配がありません。デルタ株の出現によって20歳未満でも感染する可能性が高くなりました。だれでも感染する可能性があります。新しい生活様式の徹底とコロナハラスメントの禁止については、今一度、確認をお願いします。

結びになりますが、まず皆さんに御礼が言いたい。地区総体、県総体、コンクール等を観戦させていただきましたが、3年生を中心に本当によくがんばりました。長い時間、そこに留まることはできませんでしたが、皆さんが一生懸命取り組む姿に、本当に感動しました。ありがとうございました。表彰は後日行うことにしています。

また、今日は「心をひらくことで、自分を成長させてほしい」ということを中心に話をしました。今日から始まる2学期は、3つある学期の中で最も長い学期です。この2学期の過ごし方で、それぞれの学年の充実度が変わってくるでしょう。一人一人ができること、やるべきことに一生懸命取り組んでください。2学期が1学期同様、いや、それ以上のものになることを祈念して、始業式の式辞といたします。

令和3年9月1日

観音寺市立中部中学校長 三好健浩